

「IP 防犯ネット」情報 Vol.225

～山岳遭難に気を付けましょう～

平成 30 年 8 月 2 日
石川県警察本部
生活安全企画課

昨年（平成 29 年）の全国の山岳遭難の発生件数は 2,583 件、遭難者数は 3,111 名、このうち死者数は 315 名、行方不明者数は 39 名となっています。

山岳遭難は本格的な登山だけではなく、山菜採り等でも、危険と隣り合わせであることを理解しましょう。

また、登山の際は、登山計画書（登山届）を必ず作成し、提出することをお願いします。

今年(平成 30 年)、石川県内は、6 月末現在で死者・行方不明者数とも既に昨年超え！

石川県内の山岳遭難発生状況（過去 2 年間と本年 6 月末まで）							
年	区分	遭難件数	遭難者数	遭難者内訳（人）			
				死者	行方不明	負傷	無事救出
H28		38	42	2	2	17	21
H29		27	28	3	1	14	10
H30.6 月末現在		25	26	4	3	8	11



山岳遭難防止のための 5 つのポイント



1. 登りたい山より登れる山

登山は、体力、技術、経験によって登る山を選ぶ必要があります。自分の体力、技術に見合った山に登ることが大切です。

2. 絶対に忘れてはならない装備品

- (1) 雨具・防寒具 (2) ヘッドランプ (3) 救急用品 (4) 地図・コンパス
(5) 携帯電話・予備バッテリー

3. 「せっかく来たんだから」は駄目

体調不良や悪天候の際には、早めに登山を中止する勇気を持つことが大切です。「せっかく来たんだから」ではなく、「また来られるんだから」という考えを持ってください。

4. 下山の時こそ細心の注意を

実は、遭難事故の 7 割から 8 割が下山の最中に起きています。

登りと違い、下山時には足腰に疲労がたまり注意力が低下するため、転倒や滑落の危険性が高まることに注意してください。

5. 道に迷ったら引き返す

道に迷った場合、滑落・転落する危険性が非常に高まります。道に迷ったら、正規の登山道へ戻ることが基本ですが、万が一、正規の登山道にどうしても戻れない時は、木々のない開けた場所や山の尾根など、救助隊が発見しやすい場所で待機し、体力を温存するように心がけてください。